

矢代山地で日帰り山スキー3連発

## 矢代山地 大毛無山、栗立山山スキー

上越市板倉区猿供養寺に2泊しての、矢代山地日帰り山スキー3連発。パウダー、藪、渡渉、海の幸とフルコース(?)の3日間。

3月18日(土) : 大毛無山 晴れ



金曜夜は晴れていたもので、屋根の無いところにテントを張って入山前祝の小宴会。だが、いきなりの雨でテントを担いで屋根の下に移動。びしょ濡れとなる。この雨は、山では雪のはずだ、と信じて眠りにつく。

1日目は大毛無山。起きると昨日の雨が嘘のような快晴。旧アライスキー場に車を止め、歩き出す。右手に止まっているリフトを見ながら登る。リフトの終着場から、林道沿いに進み、膳棚沢を越えた辺りから、1297Pの西側のコルを目指す。山頂直下でトラバースをして、少し登って山頂。ここで、大毛無沢を滑るかどうか迷い、やめる。これが結果として大正解。まささらな大斜面を滑り出す。昨日降った雪のおかげでまさかのパウダー。期待していなかっただけに、みんな大興奮。が、それも上部の300mだけ。残りは昨日降った雪が腐って足がとられる。ひいひい言いながら下山。もし、大毛無沢を滑っていたら、上部のパウダーも腐っていたところだった。



3月19日(日) : 栗立山 曇り



2日目は栗立山。泡立つ、すなわち雪崩から来ている山名だろうと佐藤(耕)さんから教わる。怖い。万内川砂防公園の駐車場に車を停めて歩き出す。林道沿いを歩いていく。林道が大回りしているので、ショートカットしようと740m地点を目指して尾根を登る。が、これが失敗。細い尾根の登りとなり、スキーを担ぐ。740地点からは広くなり、林道を拾いながら登る。山頂が見えてきたが、直下の斜面は雪崩の巣。雪も腐っていてやる気がなくなり、966m地点から引き返すことに。下りは、流浜谷の一本東の谷を万内川目指して滑っていく。雪は少し重かったが、上部は快適な斜面の滑りを楽しめた。下部は沢がでていて、慎重に滑る。万内川まで降り、林道を伝って駐車場にもどった。夜は猿供養寺の自然と暮らそうサポートセンターで事務局をされている北折さんのお宅へ伺い、ごちそうをいただいた。

【日程】

2017年3月18日(土)~20(月)

【メンバー】

鈴木(L)、遠藤(SL)、わらじの仲間)、太田(わらじの仲間)、佐藤(耕)、野口

【地形図】重倉山、槇、湯川内、関山

【記】野口

## 3月20日(月) : 重倉山 曇り



3日目は重倉山。昨日と同じ万内川砂防公園の駐車場から歩き始める。重倉川沿いの林道を進み、594m台地の下、林道が分かれているところに到着。当初計画では左岸の594台地に登り、台地の上を滑る予定だったが、台地への直登は無理そう。右岸の尾根から取り付くこととし、渡渉して取り付く。稜線にて重倉山を望むと、山頂直下は良さそうな斜面だが、今にも全層雪崩が起きそうな亀裂がたくさん。山頂まで行っても稜線の往復になってしまうので、山頂は断念。良さそうな斜面を滑る。最後は樹林帯の尾根を滑り、登りの渡渉点の少し下から渡渉して、左岸の林道に出て駐車場に戻った。

登る場所の選定、下る場所の選定が、現地に行ってみないと分からなかったり、山スキーならではの難しさを感じる山行となり勉強になりました。

パウダー滑走、藪、渡渉、下山後の宴会と、山をフルに楽しめた三日間でした。

### 【行程】

- 3/18 旧アライスキー場駐車場(7:30)～大毛無山山頂(10:50)～旧アライスキー場駐車場(12:30)
- 3/19 万内川砂防公園駐車場(7:30)～966地点(11:30)～万内川砂防公園駐車場(13:00)
- 3/20 万内川砂防公園駐車場(8:15)～稜線(11:30)～万内川砂防公園駐車場(12:45)

旧アライスキー場は、次のシーズンからロッテが経営するスキー場として再開することになっている。開場前の静かな大毛無山を楽しめました。スキー場が作られる前から行っているものとしては、感慨深いものがありました。栗立山・重倉山は、シーズンのデブリや渡渉があり、美味しく、安全な斜面を滑るためには、やや工夫が必要だ。それにしても、同行していただいた皆さんは元気でした。ついて行くのが大変でした。ごちそうを準備して下さった北折さんをはじめ、猿供養寺の皆さんには、ただただ感謝の言葉しかありません。(鈴木 記)

